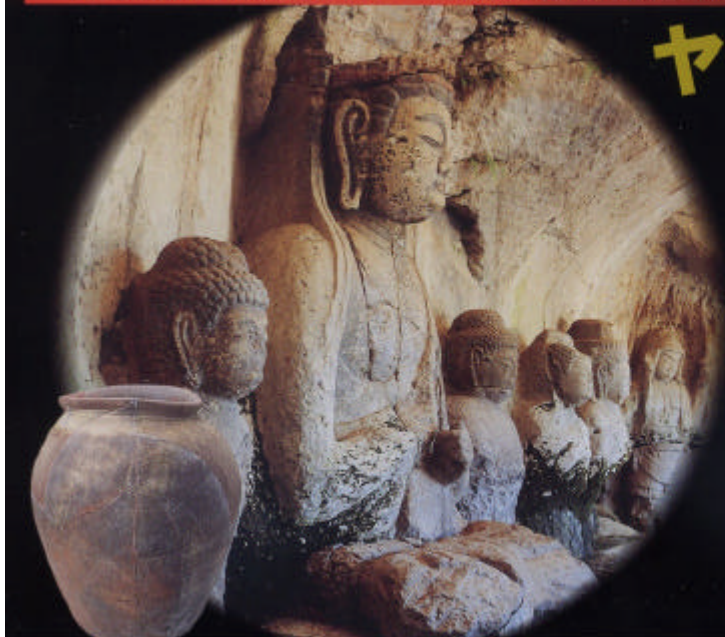


ヤマコ 白杵美術博物館



城下町 白杵

お土産に海山の幸

海山の自然に恵まれた白杵は、白杵海苔をはじめとし、カボスや多彩なお菓子類などお土産品の宝庫です。



白杵には懐かしい風景や情緒豊かな町並みが残っています。とりわけ武家屋敷が並ぶ二王座（におうざ）一面は、城下町白杵の風情が最も感じられるところです。これら城下の町並、祇園祭りなどの文化は稲葉氏の時代に培われたものといわれます。



共通券 国宝白杵石仏と ヤマコ白杵美術博物館

対象	料金
高校生以上	700円
小・中学生	400円

入館料 ヤマコ白杵美術博物館のみ

対象	料金
高校生以上	400円
(30名様以上団体)	360円
小・中学生	200円
(30名様以上団体)	180円

入館時間

午前8時30分～午後5時

■年中無休

国宝 白杵石仏発掘資料
県指定有形文化財 白杵藩主稲葉家資料

ヤマコ白杵美術博物館

県有形文化財

白杵藩稲葉家資料



1F

2F

白杵と稲葉家

ゆかしい歴史と文化の城下町白杵は、キリシタン大名大友宗麟が永禄5年(1562)頃、丹生島現 白杵公園に築城したことに始まります。慶長5年(1600)には美濃から稲葉氏が入城、以来幕末まで15代にわたる白杵藩5万余石を治めました。

1階展示室では、往昔の城中を物語る藩主の馬具や文具などの道具、奥入れの際の豪華な嫁入り道具など多彩な文化財を展示しています。白杵と稲葉家の関わりを通じて、さらに白杵への親しみを深めて下さい。

国宝

白杵石仏発掘資料

▶ 備前系甕



◀ 天目茶碗



▶ 軒丸瓦



中世の白杵

— 仏をめぐる世界 —

わが国石造美術の最高傑作として知られる国宝 白杵磨崖仏。江戸時代中期の記録によると、平安時代末期から室町時代末期まで磨崖仏と関連すると思われる寺院が存在していたと記されています。



▲化粧道具一式 (婚礼調度より)



▲香道具一式 (婚礼調度より)



▲蒔絵螺鈿重箱



▲桐唐草蒔絵給飲食器



▲螺鈿細刀掛



▲一鉄文書



▶ 破れ亀甲蒔絵袴・履

◀ 蓮井文青磁



▶ 甕



◀ 桐葉型瓦器椀



1976年から随時行われてきた発掘調査によって古園石仏の前庭部や現満月寺境内、湿地地帯などから多くの建物遺構が発見され、それらの寺院の存在が裏付けられました。

2階展示室では、これら発掘された中世の土器や陶器、中国磁器、石製品・鉄製品など代表的な遺物を多数展示、今なお謎に満ちた白杵磨崖仏をめぐる世界に誘います。